

国語 第4学年 慣用句

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、慣用句を文字どおりの意味と区別し、場面に合う使い方を考える。身体を表す語から実際の身体の動きへ短絡しない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「慣用句」 教材名「慣用句」

2 単元の目標

慣用句の意味を知り、話や文章の中で使うことができる。目的や相手に合う表現かを確かめ、慣用句を使う文を直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①慣用句の意味を知り、話や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(3)イ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、目的や相手に合う表現かを確かめ、慣用句を使う文を直している。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

慣用句を文字どおりの意味と区別し、場面に合う使い方を考える。身体を表す語から実際の身体の動きへ短絡しない。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)イを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

独自例「首を長くして待つ」を、待つ出来事と気持ちの説明に言い換える。辞書で確かめた意味に合う場面かを相手に読んでもらい、伝わり方で見直す。おおむね満足できる状況は、目的や相手に合う表現かを確かめ、慣用句を使う文を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○慣用句の文字どおりの意味と慣用的意味を比較する。辞書で意味を確認する。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○使う場面を考えて文にする。読み合っ場面との対応を直す。 評価：思①（発言・学習記録）

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

目的や相手に合う表現かを確認、慣用句を使う文を直すことができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この言い方で、どんな気持ちや様子を伝えていますか」

【めあて】慣用句を文字どおりの意味と区別し、場面に合う使い方を考える。

予想される児童の反応：・本当に首が長くなるわけではない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この言い方で、どんな気持ちや様子を伝えていますか」

使う場面を考えて文にする。読み合って場面との対応を直す。

慣用句、意味の言い換え、使う場面の短い文と、その理由。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・本当に首が長くなるわけではない。

・待ち遠しい気持ちが伝わる。

・同じ体の言葉が入っていても意味が違う。

指導上の留意点：独自例「首を長くして待つ」を、待つ出来事と気持ちの説明に言い換える。辞書で確かめた意味に合う場面かを相手に読んでもらい、伝わり方で見直す。

想定するつまづき：文字どおりの動作と解釈する、面白い例を作るだけで意味を説明しない。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 目的や相手に合う表現かを確認、慣用句を使う文を直している。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・同じ体の言葉が入っていても意味が違う。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言い方で、どんな気持ちや様子を伝えていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

